

情報通信審議会

電気通信事業部会・接続委員会合同ヒアリング資料

「平成20年度以降の接続料算定の在り方について」

2007年5月22日

株式会社 ウィルコム

はじめに ～PHS事業者における接続料負担～

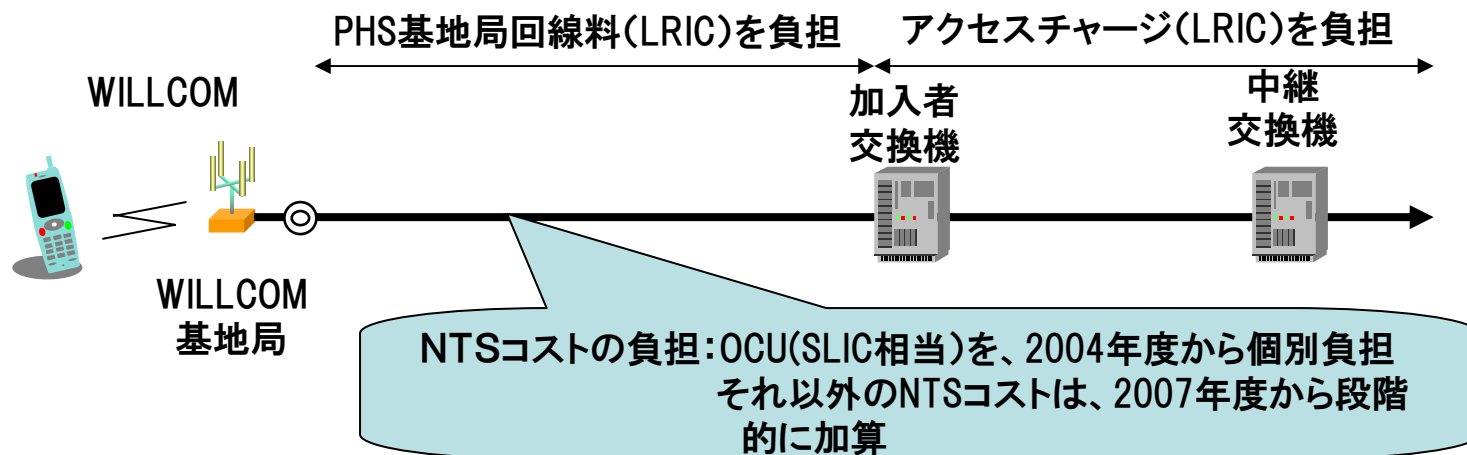
•この度は、平成20年以降の接続料の在り方に関し、意見発表を行なう機会をいただき、厚くお礼申し上げます。

•次ページより弊社意見を述べさせていただきますが、弊社では、アクセスチャージの他にPHS基地局回線料を負担しているため、他の接続事業者殿とは状況が異なる点について、あらかじめご理解いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

①LRICモデルは基地局回線についても適用されている。

②アクセスチャージ原価から控除されたNTSコストは、基地局回線料として負担する(※)。

※PHS事業者の接続料負担とNTSコストの関係



検討事項① 新たなLRICモデルの評価

結論

- 新LRICモデルを2008年度以降の接続料算定に用いることに賛成いたします。
- しかしながら、PHS基地局回線への適用については、実際費用方式との比較を行なっていたが、LRIC適用の要否について改めてご検討いただくことを要望いたします。

理由

- 新LRICモデルでは、PSTNへの投資抑制等の実態やIP化の進展に対応した見直しが行なわれており、一定のコスト削減が図られております。
- PHS基地局回線に適用される端末回線についても、ドライカップ電話との費用配賦が適切になされており、モデルロジックに起因した端末回線コストの上昇が抑制されるものと考えます。
- しかしながら、弊社試算(6～7ページ参照)では、LRICモデル算出値がNTT東西殿の実際費用を上回る可能性があります。
 - 2005年度遡及精算後ベースで、100円～150円程度実際費用の方が安価
- LRIC適用の趣旨は、モデルにより接続料の低廉化を図ることであったと認識しており、この観点から、PHS基地局回線へのLRICモデル適用の要否について、再度検討を行なっていたきたいと考えております。

検討事項② NTSコストの扱い

結論

•NTSコスト付替え期間について、接続料の安定的推移を図るという趣旨を踏まえ、見直しを行なうことは十分合理的であると考えます。

理由

•前回答申(2004年10月情報通信審議会答申)では、

- 接続料の値上げにつながらない

- NTT東西殿基本料収支に過度な影響を与えない

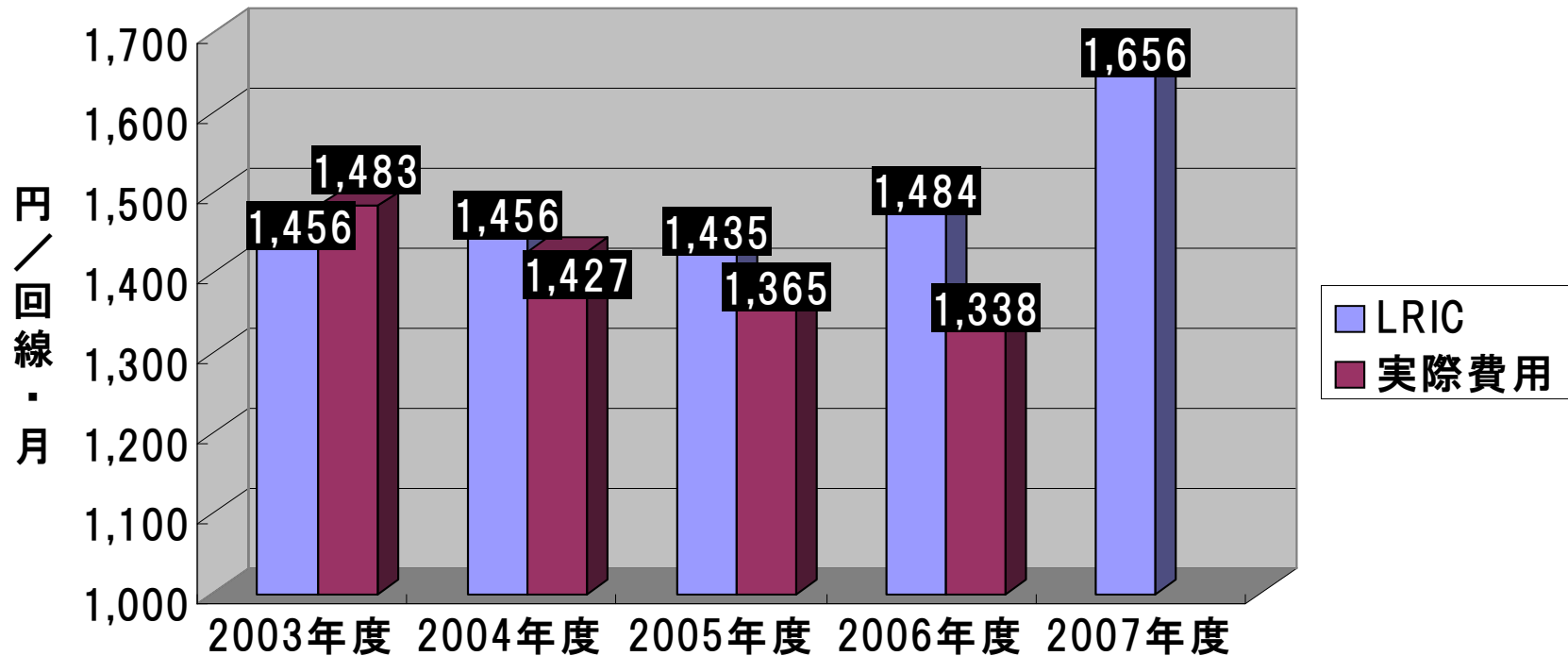
ことを考慮し、接続料が安定的に推移するようNTSコストの付替え期間が設定されました。

•今回の接続料設定にあたっては、接続料推移が当時の想定と異なる状況に鑑み、前回答申の趣旨に基づき、NTSコストの付替え年数を再設定することは十分合理的であると考えます。

その他の検討事項

検討事項	弊社の意見
③接続料算定に用いる入力値の扱い	・従来どおり(直近の入力値を用いる)とすることが適当と考えます。
④接続料における東西格差の扱い	・前回答申時と大きな状況変化はないことから、引き続き東西均一とすることが適当と考えます。
⑤新モデルの適用期間	・「新競争促進プログラム2010」において、2010年を目途に制度全般の見直しを行なうこととされていることから、新モデルの適用期間は2008年度～2009年度の2年間とすることが適当であると考えます。
⑥新モデル適用期間後における接続料算定の在り方	・IP化の進展状況等を踏まえ、適切な時期に検討を行なっていくことが妥当であると考えます。

【参考】LRICと実際費用の比較（東日本）



(単位:円/回線・月)

	2003年度		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度
	LRIC	実際費用	LRIC	実際費用	LRIC	実際費用	LRIC	実際費用	LRIC
端末回線	1,162	1,149	1,162	1,151	1,117	1,173	1,176	1,164	1,254
OCU	294	334	294	276	318	192	308	174	293
NTS									109
合計	1,456	1,483	1,456	1,427	1,435	1,365	1,484	1,338	1,656

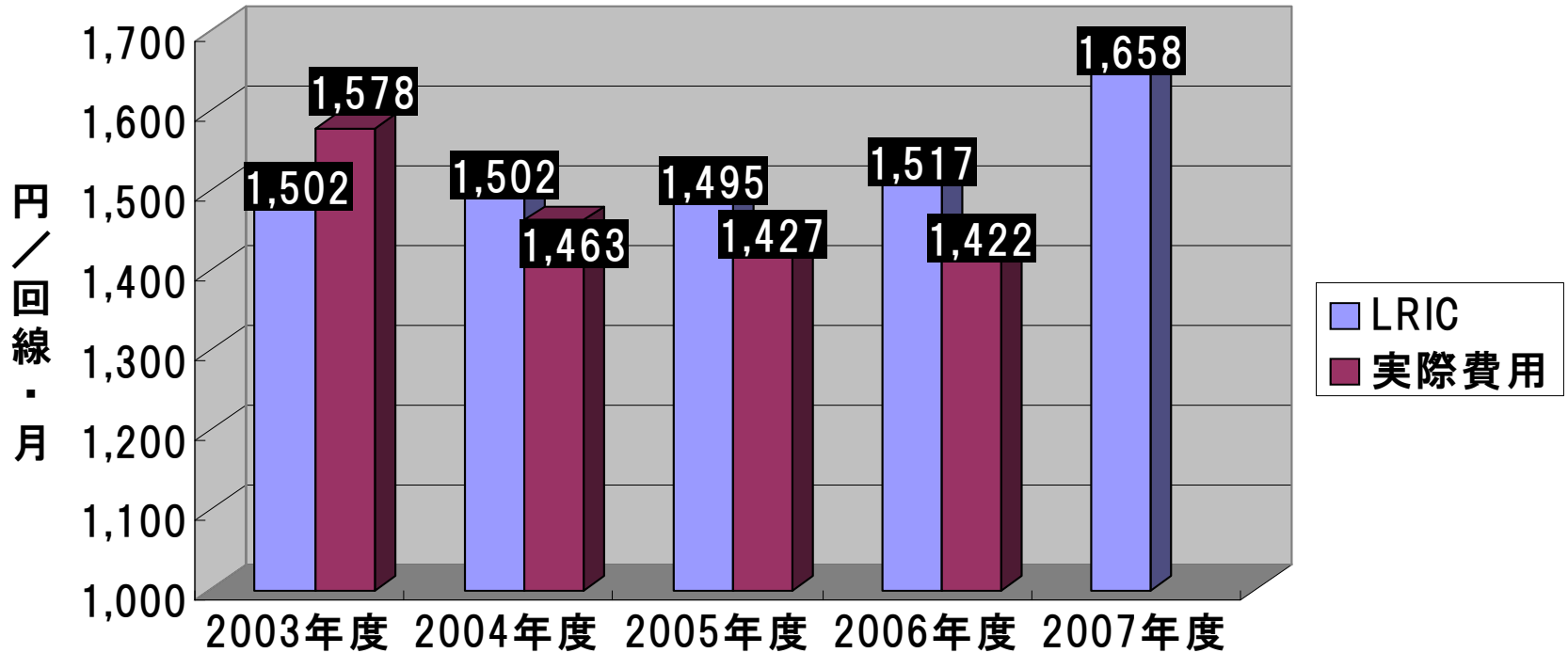
※OCUコストは2004年度から負担。

※実際費用は、NTT東西殿接続料算定資料のメタル回線(ドライカップ以外)・ISDN-OCUのコストを加算。

※実際費用には施設設置負担金相当コストを含むが、LRICでは施設設置負担金が別途必要。

※LRIC・実際費用とも、回線管理運営費は含まず。

【参考】LRICと実際費用の比較（西日本）



(単位:円/回線・月)

	2003年度		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度
	LRIC	実際費用	LRIC	実際費用	LRIC	実際費用	LRIC	実際費用	LRIC
端末回線	1,199	1,236	1,199	1,194	1,170	1,231	1,204	1,229	1,258
OCU	303	342	303	269	325	196	313	193	295
NTS									105
合計	1,502	1,578	1,502	1,463	1,495	1,427	1,517	1,422	1,658

※OCUコストは2004年度から負担。

※実際費用は、NTT東西殿接続料算定資料のメタル回線(ドライカップ以外)・ISDN-OCUのコストを加算。

※実際費用には施設設置負担金相当コストを含むが、LRICでは施設設置負担金が別途必要。

※LRIC・実際費用とも、回線管理運営費は含まず。